

2020年度学校自己評価(かもめ幼稚園)

学校法人東海大学初等中等教育課

評価(Aよい Bおおむねよい Cどちらともいえない Dやや不十分 E不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策・向上策
園運営 (分掌)	学校評価(自己評価・保護者アンケート)をふまえ、学校運営上の課題について、改善する。	2020年度は新型コロナウイルス感染症が拡大する中でのスタートとなった。熊本市に緊急事態宣言が発出され、感染拡大予防のため4月13日から5月まで2ヶ月あまりの臨時休園の措置を取らざるをえなくなった。6月園再開後はマスク着用、3密を避ける、手洗い、消毒などの徹底した感染対策をとり、行事の変更・規模縮小を行いながら、安心、安全を最優先に園運営を行った。結果、感染は全くなし、園のみならず、各家庭の感染対策へのご協力の賜物と心より感謝したい。	A	今後も緊急事態を想定した安心安全の園作りを念頭に置きながら、東海大学の附属幼稚園としての特色ある教育の推進に努めていきたい。
保育指導 (幼児指導) (教育課程)	主体的に興味関心のある遊び・及び課題に意欲的に取り組み、生きる力を身につけられる保育を展開する	2020年度は新型コロナウイルス感染症のため、3密回避をとりながら、保育活動を行った。例えば、いつも全学年が一同に会して行う誕生会、始業式などは学年ごとに分散して行うなど密にならない方法をとった。感染対策の中でも東海大学のスケールメリットを生かし、農学部で育てたいも苗を全園児で植えるなど他では経験出来ない体験活動を通して教育的成果を上げることができた。コロナ禍の中で色々な制約はあるが、園児・保護者・先生方と三位一体となった教育の推進を図り、園児たちの健やかな成長につなげたい。	A	今後もコロナ禍における教育の在り方を模索し、新教育要領の主旨を生かしながら、遊びを通した総合的教育の一層の充実が図れるように内外の研修を強化し資質向上に努めたい。
クラス指導	教育目標を取り込んで、学級運営と学年運営の充実を図り、特色あるクラス指導をする。	コロナ禍でのクラス活動の1年間となったが、東海大学及び本園の教育目標を基調としてそれぞれの学級経営方針にそって特色ある教育・保育を展開することができた。	A	安心・安全の環境の中で今後も教育目標に即した教育活動を精選し、特色あるクラス作りを目指したい。
生活指導	自立できる子どもをめざして、それぞれの子どもの成長に寄り添って、発達段階を見据えた指導をする。	コロナ禍での新しい生活様式に基づき、マスク着用、手洗い、消毒などの感染予防対策が習慣づくようにした。コロナ禍にあっても自立できる子どもをめざして、一人ひとりに応じた指導・援助を丁寧に行い、生きる力を育むことに務めた。生活習慣の獲得には家庭の継続した協力を是非お願いしたい。	B	今後も幼稚園のみならず、各家庭の協力を得てコロナ禍での感染対策を行い、連携してより良い生活習慣の獲得を目指したい。
就学指導	就学について、情報を提供し、さまざまな相談に応じ、適切な指導をする。	2020年度はコロナの影響もあり、小学校見学、連絡会、研究授業参観などへの参加ができず、就学にむけの情報交換が難しかった。対面だけでなく、電話やアンケートなどで学校間との連絡を密にして就学に不安がないように備えた。今後も小学校との連携を図りながら、適切な就学指導を行っていきたい。	B	コロナの影響で小学校との連携、情報交換が難しい面もあったが、学級懇談会などを通して、保護者に情報を発信し、小学校への就学につなげていきたい。
特別活動	園行事や保育活動等を通して、豊かな情操を培い、異なる学年との交流が図られるよう指導する。	2020年度はコロナ対策優先の活動となり、一貫教育の中での東海大学及び附属熊本星翔高校の学生、生徒との交流をはじめ地域との交流が難しかった。	B	コロナ対策として対面での交流は難しいが、今後も異年齢交流と地域との交流は途絶えることなく積極的に推進していきたい。
研修	保育改善、研修、自己課題等に積極的に取り組み、先取的保育が構築できるように研鑽する	2020年度は新型コロナウイルス感染症対策の為対面からリモートによる研修参加となり、研修の形が大きく変わることとなった。外部への研修参加の機会は減ったが、リモートによる研修は園内で全員が同じ研修内容を共有することができ、一定の成果を上げることができた。感染症対策の研修も行い職員の共通理解と一層の資質向上に繋がった。今後も積極的に研修に参加し、より質の高い保育・教育の定着を目指したい。	B	今後とも園内外の研修会に積極的に参加し、資質の向上、自己研鑽に努めたい。講師を招いての園独自の研修会も積極的に設けたい。